

1

説明文の出典は高田明典『コミュニケーションを学ぶ』（ちくま書房）です。他人とコミュニケーションを上手にとるには、まず自己を理解することが大切である、ということを説いた文章です。

問一

1 頁上段 8 行目傍線（1）「調停者を作る」という箇所に関して、本文中の「調停者」の役割とはどのようなものを問う問題です。冒頭の 3 行で調停者が必要となる状況が説明されているので、この部分を用いて解答を作成することになります。1 頁上段 1～2 行目の「二人の人間がいて、お互いが意見を述べ合っているという状況」、また、そのような二人を「合意に至」らせることが今回の「第三者としての『調停者』」の役割ということになります。よって解答は「第三者の立場で、意見を述べ合っている二人の人間を合意に至らせる役割。」となります。

問二

1 頁上段 9 行目傍線（2）「少しの練習」とありますが、その練習の具体的な内容を問う問題です。傍線部直後の 1 頁上段 9 行目に「まず自分の言動を可能な限り言語化していく」とあり、同じく 16 行目に「次に、『感情』や『自分の状態』について言語化していく」、さらに、27 行目に「次に、自分を『三人称』で呼ぶ練習をしてみましょう。」とありますので、これら三段階の練習内容がまとめてあれば、正解となります。

問三

1 頁下段 34 行目傍線（3）「言語化」とありますが、言語化と同じことを言っている部分を本文中から十字以内で抜き出す問題です。「言語化」という言葉は 1 頁上段 9 行目から 10 行目にかけてにも書かれており、その直後の「簡単に言うと」以降で「言語化」が言い換えられていることがわかります。よって、正解は 11 行目の「内心でつぶやくこと」となります。

問四

1 頁下段 42 行目傍線（4）「私たちは『自己』とのあいだで十分な合意や了解が得られない」とありますが、では、「自己」とのあいだで十分な合意や了解を得る、とはどういうことなのかを簡潔に説明する力を問う問題です。傍線（4）以降に、自己との合意や了解が得られていない場合に陥ることが説明されており、49 行目以降にもその具体例としてレストランでの例が紹介されています。つまり、49 行目の「自分の思考や感情のことをよく知りません。」ということが合意や了解を得ていない、ということと同じですので、この部分を用いて、正解は「自分の思考や感情を理解すること。」といった内容になります。

問五

2 頁上段 74 行目の空欄（5）に適語を入れる問題です。空欄の直前に「車の」とあること、また、空欄の直後に「どちらがかけてもうまくいきません。」とあることから、正解は「両輪」となります。

問六

接続詞を選ぶ問題です。1 頁上段 30 行目の **A** の直後を見ますと、「自分のことであっても」、という譲歩の表現がありますので、エの「たとえ」が入ります。1 頁下段 37 行目の **B** は、直前に『自分を客観的

に見る視点』が、自分の内部に出来上がります。」とあり、後に「その視点」とあることからわかる通り、前後の文章は順接の関係にあるため、イの「そして」が入ります。1頁下段47行目の[C]は、直後に『『内なる調停者』が十分に機能しているのであれば』といった仮定の表現がありますので、ウの「もしも」が入ります。1頁下段49行目の[D]は、先ほども述べたとおり、直後に「自分の思考や感情のことをよく知らない」ことについてのレストランでの具体例が書かれているため、具体例を導く表現である、アの「たとえば」が入ります。

問七

漢字の書き取り問題は、楷書で丁寧に書く必要がありますので、十分注意してください。

問八

本文の内容に合うものを答える問題です。この文章の後半、特に2頁上段73行目以降のまとめの部分で自己と他者、その双方とのコミュニケーションがともに大切であるということが述べられていますので、正解はイとなります。アの、自己とのコミュニケーションと他者とのコミュニケーションを理解する順番に関しては本文では述べられていません。ウとエは、それぞれ最後の部分の「多くの人は既に行っている」、「強い個性と意志を持つ必要がある」という記述が本文にはありません。

2

物語文の出典は、濱野京子「木工少女」（講談社）です。出題されているのは、主人公の「美楽」が、木工の師匠である「明野伝造」、通称「デンさん」や、その息子である「山田」との、バレンタインデーの日の出来事に関する場面です。

問一

3頁上段23行目傍線(1)「同時にムツとした」とありますが、「デンさんの娘」と「美楽」がそう思った理由を問う問題です。2人が「ムツと」した直接の原因は、直前のデンさんの発言そのものによるものであるため、アの「娘さんに対して普通に会話するデンさん」や、ウの「この状況」に対しての感情ではありませんし、エのように、美楽が自分自身に対して抱いた感情でもありません。よって正解はイとなります。

問二

3頁上段30行目傍線(2)「空振りです。」とありますが、美楽がこの語句で表現している内容を具体的に問う問題です。「空振り」ということは良い結果が得られなかったということです。解答の中心は「デンさんにチョコレートを渡すことが出来なかった」という内容になります。そして、設問に「具体的に」とありますので、より詳しく説明していくと、チョコレートをデンさんにあげることができなかった原因は、3頁上段21行目に「わたしは笑う。ごちなく。」とあるように、娘さんを見て気おくれしてしまったこと、また、3頁上段4行目の「いつになく緊張していた。」。同じく30行目の「それほど緊張してたのに、」などから、美楽がデンさんただ一人にチョコレートをあげるのだと、緊張していた、意気込んでいた、という内容を付け加えることが出来れば、より良い解答になります。解答例としては、「自分がチョコレートをあげるのはデンさんただ一人だと意気込んでいたのに、デンさんの娘が来ていたのを見て気後れしてしまい、チョコレートを渡すことが出来なかったということ。」となどが挙げられます。

問三

3 頁下段 36 行目傍線 (3)「無理に笑った」とありますが、美楽がこのような行動をとったときの様子、またそうした理由などを問う問題です。「無理に」という語句から、美楽が本当は笑いたいわけではなくて、自分を励まそうとしているということが読み取れます。また、美楽の気分が滅入っているその主な理由は、デンさんにチョコレートを渡すことができなかったということなので、正解はイとなります。

問四

4 頁上段 71 行目傍線 (4)「手」を用いた慣用語の意味を問う問題です。一はエ、二はオ、三はア、四はイ、五はウ、となります。

問五

4 頁下段 129 行目の空欄に当てはまる漢字一字を問う問題です。問題文にあるように、この空欄には「いつわっていない」と言う意味の字が入りますので、答えは「本心」、つまり「本」という一文字が正解となります。

問六

5 頁下段 174 行目傍線部 (6)「ごめんな、山田。ありがとう、山田」とありますが、このときの美楽の気持ちを問う問題です。「ごめんな」という言葉と「ありがとう」という言葉から、山田に対する謝罪の気持ちと感謝の気持ちが解答の中心となります。感謝の気持ちは、5 頁下段 170 行目で山田からの「大好きだよ」という言葉に対してであり、謝罪の気持ちは、5 頁上段 162 行目に「ごめん、山田。」とあり、その直後に「それをわたしは、やっぱりデンさんにいちばん最初にいいたいのだ。」とあるので、ベンチを作ることを伝える際、山田よりもデンさんを優先してしまう自分の気持ち、つまり、山田の想いに応えられていないことに対する申し訳なさからくるものと言えます。山田が自分のことを大好きだと言ってくれたことへの感謝の気持ちと、峯小にベンチを残そうという決意を山田ではなくデンさんに一番に伝えたいと思ってしまう、山田の想いに応えられないことに対する謝罪の気持ち、この2点を以上のような箇所からまとめたものが正解となります。解答例としては、「山田が自分のことを大好きだと言ってくれたことに感謝する一方で、峯小にベンチを残すという決意を山田ではなくまずデンさんに話したいと思ってしまうことを申し訳なく思う気持ち。」

問七

それぞれの空欄に入れる適切な擬態語を選ぶ問題です。3 頁上段 28 行目の **A** は、シルバーグレーの車が光っている様子を表す、エの「ぴかぴか」、3 頁下段 37 行目の **B** は、ぶら下げている様子を表す、ウの「ぶらぶら」、4 頁上段 73 行目の **C** は、興味深く見つめている様子を表す、イの「しげしげ」、5 頁上段 146 行目の **D** は、熱心に見つめる様子を表す、アの「きらきら」が、それぞれ正解となります。

問八

本文の内容に合致するものを選ぶ問題です。この文章は峯川村に引っ越してきた美楽が、木工を通じて村や村の人間に愛着を持つようになる、という物語であり、5 頁上段 157 行目に「ベンチを作ろう。最初に気に入った、つるつるのベンチ。それを峯小に残そう。」とあることから、エが正解となります。アは後半の「それによって建物の外の車にいたのはデンさんの元奥さんだということに気づいた。」が誤り。イは前半の「山田の祖母は美楽を見てすぐには誰だかわからなかった」が誤り。ウは後半の「山田の妹であればもっと素直に振舞わなければいけないと常に気にしていた。」が誤りです。